



# 亀中だより

No.5

令和4年4月26日 文責 岡田



For The Students!

## 「先生、男でも首相になれるの？」

ドイツの小学校で、子どもからの質問があったそうです。

昨年12月、ドイツ連邦議会（下院）は、首相指名選挙を行い、オラフ・ショルツ氏を首相に選出しました。4期16年にわたり首相を務めたアンゲラ・メルケル氏は、政界を引退されました。つまり16年ぶりに男性首相が誕生したわけです。政治的な話は置いておくとして、「先生、男でも首相になれるの？」はドイツの小学生の言葉、みなさんはどう感じるでしょうか。

16年という年月を長いと思うか、短いと思うかは別として、子どもたちのような純粋な人の感覚が、全く新たなものとなっていることに驚かされます。それと同時に自分にはどこか先入観みたいなものが、あることも思い出させてくれます。

下の写真は、このことをモチーフにした株式会社宝島社の広告です。企業広告でありながら、社名は右下にほんの小さく表記されているだけです。いろいろな思想ともいえる企業姿勢もうかがい知ることができますが、広告意図として以下のような記述がありました。

ジェンダーをはじめとする、世界中のさまざまな課題。解決が難しいと思えるものも、実はわずか16年という時間があれば、解決できる。重い腰をあげることができれば、あっという間に常識は塗り替えられる。2022年。新しい年の始まりに、新しい世界を生み出そうとする人の背中を少しでも押せればと思います。

### 男でも、 首相に なるの？

ドイツでは、子どもたちからこんな質問が出るらしい。16年間、女性が首相を務めた結果だ。何だか痛快な気持ちになるのはなぜだろう。人間の間にはびこるつまらぬ上下関係が、鮮やかにひっくり返されているからだろう。わずか16年で、常識なんてばっと変わる。さあ2022年。ちょっと上を見上げてみる。次のガラスの天井は何だろうか。変わりそう変わらない働き方改革だろうか。いまだにびこる長老政治だろうか。ほんの少しでもひびが入れば、ガラスはちろく壊れてゆく。